

第76回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成31年1月23日（水） 14：00－15：00
2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室
3. 出席者
 - (1) 委員
葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、折木委員、山崎委員
 - (2) 政府側
内閣府宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、行松審議官、須藤参事官、高倉参事官、森参事官、山口参事官
4. 議事要旨
 - (1) 平成31年度宇宙関係予算案等について、事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。(以下、○委員からの意見)
 - 関係省庁の尽力により、宇宙関連の予算が増額していることは大変良い。引き続き、宇宙政策を着実に推進していただきたい。
 - スマート農業やスマートシティといった政府横断の取組の中においても、宇宙予算がしっかり位置づけられていることは大変良いことである。
 - (2) 準天頂衛星の7機体制に向けた開発について、事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。(以下、○委員からの意見、質問、●事務局からの回答)
 - 準天頂衛星システムについては、日本の宇宙開発をけん引する象徴的なプロジェクトだと思う。当初の予想以上に着実に開発・整備が進んでおり、大変うれしく思う。今後、準天頂衛星の利用を進めていくためには、引き続き、開発を推進していくことが重要である。他方で、Brexitに際して、イギリスが、EUのガリレオのサービスから除外されるのではないかと、といった話を聞くが、日本として、イギリスと何らかの協力はできないものか。
 - イギリスが、ガリレオのシステムから外れるのか否か、ということについては、まだ最終的に決まった話ではないと理解している。他方、イギリスとの測位分野での協力は、現時点では具体的なものはないが、引き続き、イギリスとは様々な観点から意見交換を進めていきたいと思う。また、準天頂衛星の5号機、6号機、7号機の開発については、JAXAとしても協力していきたい。
 - (3) 最近の宇宙空間における活動状況と今後の検討の方向性について、事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。(以下、○委員からの意見、質問、●事務局からの回答)
 - 近年、宇宙活動の範囲がどんどん広がり、そのスピードも速くなっている。そのような中、欧米では、スペースポートの検討・整備が着実に進んでいる。日本でも、スペースポートの整備

を進めていくことが重要。こうした場がないと、日本国内でのスペースプレーンの開発・実証が行えず、アメリカに行かないと認証が取れない、といった事態にもなり得る。日本として、スペースポートの検討が加速していくことを大変期待する。

- 最近では、ロケットの開発だけではなく、ビジネス計画の策定や、許認可の取得をサポートすることなどを、ソリューションとして提供するようなビジネスも増えている。こうした、ソフト関連のビジネス企業の支援も必要かと思う。
- JAXA としては、ロケットやスペースプレーンの開発を行うベンチャー企業とも連携を進めている。日本の宇宙産業の発展に貢献していきたい。
- 深宇宙については、米国のみならず、JAXA としては、インド、欧州、カナダとも様々な連携ができないか検討している。

以上